支援と受援⑨

命を救った災害時の相互応援協定 友好町 山形県庄内町の熱い支援

▲庄内町のみなさんによる炊き出し支援（歌津地区）　写真提供　山形県庄内町

水、食糧、電気など命を支えるすべてのものが途絶えた南三陸町で、速やかに救援活動を展開してくれたのは、東日本大震災で被災しなかった震源地から遠い自治体だった。

友好町盟約書を交わし、災害時の相互応援協定を結んでいた山形県庄内町の先遣救援隊は、2011（平成 23）年 3 月 13 日の朝、毛布 50 枚、肌着 50 組、水を積んで南三陸町に向かった。到着した南三陸町は、変わり果てていた。南三陸町長、副町長に面会し、必要な物資を聞き取り、翌 14 日から本格的な支援が始まった。

毎日 4 トン車 2 台に水、おにぎり、無洗米を積んで、片道 5 時間以上の距離を走った。同年 3 月末までの毎日、8,000 個のおにぎりと 1 トンの水が、この距離を越えて届けられた。時に凍結する山越えの道を走り、届けられたおにぎりの数は延べ 10 万個にのぼる。

応急的な支援が一段落して、庄内町と庄内町社会福祉協議会の共催で「南三陸町復興支援災害ボランティア」が組織され、「心の支えになろう」とバスを用いてのボランティア支援が行われるようになった。また、南三陸町の住民や子どもたちを庄内町に招くなど、心通い合う交流が続けられた。

以前から旧歌津町と旧立川町の小学校では交流が行われており、両町民の交流の土台があったことから、今回の大災害に際して、相互応援協定は、迅速かつ的確にその機能を発揮することができた。